

令和2年度 公立瀬戸旭看護専門学校 自己点検・自己評価結果

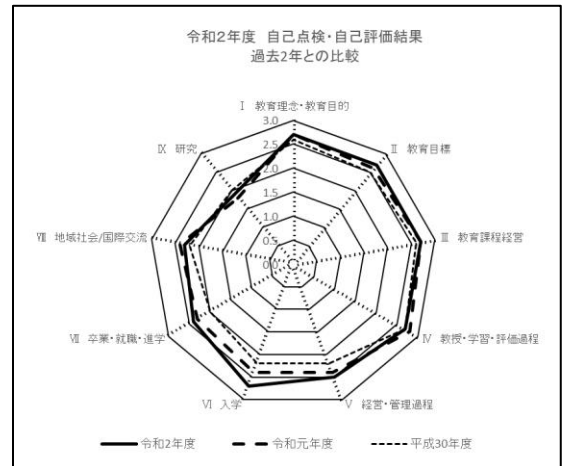
平成30年度より、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に点検項目を決め、自己点検・自己評価委員会を開催し、全教員による評価点数の平均値により自己点検・自己評価を実施しています。さらに、令和元年度より、自己点検・自己評価の客観性と透明性を高めて学校運営の改善を図るために、「学校関係者評価委員」の方々にも評価していただいておりますので、これまでの結果と共に、令和2年度の自己評価内容および学校関係者評価結果を公表します。

1. 自己点検・自己評価の結果

点検項目の評価は、「3：当てはまる」「2：やや当てはまる」「1：当てはまらない」の3段階とし、カテゴリー毎に点数を総計し、その平均値を評価の結果としています。

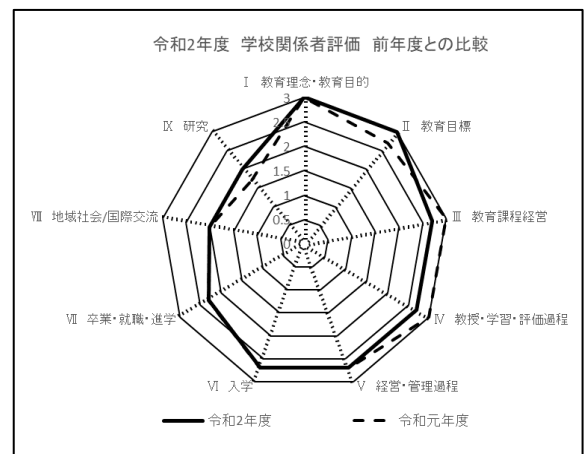
1) 平成30年～令和2年度 内部評価の結果

カテゴリー	項目数	評価結果		
		令和2年度	令和元年度	平成30年度
I 教育理念・教育目的	11	2.7	2.7	2.6
II 教育目標	7	2.7	2.6	2.5
III 教育課程経営	31	2.7	2.7	2.6
IV 教授・学習・評価過程	17	2.7	2.8	2.7
V 経営・管理過程	30	2.5	2.4	2.2
VI 入学	2	2.7	2.4	2.2
VII 卒業・就職・進学	8	2.4	2.3	2
VIII 地域社会/国際交流	10	2.3	2.4	2.2
IX 研究	3	1.9	1.8	2



2) 令和元～2年度 学校関係者評価の結果

カテゴリー	令和2年度	令和元年度
I 教育理念・教育目的	3	3
II 教育目標	3	2.7
III 教育課程経営	2.7	3
IV 教授・学習・評価過程	2.7	3
V 経営・管理過程	2.7	2.7
VI 入学	2.7	2.7
VII 卒業・就職・進学	2.3	2.3
VIII 地域社会/国際交流	2	2
IX 研究	2	1.7



2. 令和2年度 自己評価及び学校関係者評価結果

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
一 教育理念・教育目的	<p>教育理念として、設置主体である瀬戸・尾張旭市の地域住民の健康と福祉の向上に寄与することができる、人間尊重の精神を持つ感性豊かな看護師を育成することを掲げ、教育目標とともに学生便覧、授業概要、ホームページ、学校案内パンフレット等に掲載している。</p> <p>学生に対しては、教育理念を具現化し、目指す看護師像に到達するための1年間の学習内容に対応した学習目標を提示して、年度始めに学生毎にガイダンスを実施している。教育理念等の学生への浸透については、今年度実施したアンケート結果から、認知度が50%程度に留まっている。前年と比較すると10%の増加がみられるがまだ低い。今後も、学生が常に意識できるように授業や実習など様々な教育活動において意図的な働きかけを継続して行うことが肝要である。</p> <p>さらに、令和4年度からの新カリキュラムに向けて、地域のニーズやその変化に対応しているかという視点で見直すとともに、本校の特徴を盛り込み独自性を出していく必要がある。</p>	2.7	3.0	・内部評価の通り。
二 教育目標	<p>教育理念・教育目的を基に教育目標を6項目あげ、その目標毎に内容を具体的に明文化している。</p> <p>教育理念に対して教育目的・教育目標は対応しており、一貫性がある。また、教育目標については、社会ニーズに応える内容となっており、教育目標毎に設定意図が明文化されているので学生には理解しやすいものとなっている。卒業時の到達やゴールとして、今年度から、ディプロマポリシーを掲げ、ホームページ上に掲載し、学生だけでなく、地域への周知も図っている。</p>	2.7	3.0	・内部評価の通り。
三 教育課程経営	<p>教育課程は、教育理念・教育目的に沿って学習目標や内容を考慮し、序列化して構築している。</p> <p>各授業は、学生が理解しやすいよう工夫し、授業評価を得ながら改善を図っており、科目配列に関しては学生の効果的な学びに繋がるようにしている。</p> <p>今年度は、コロナ禍により、授業内容や評価方法の変更を余儀なくされたが、学生にはその都度シラバスを再配布後丁寧に説明し、学生の納得を得ながら実施してきた。その為、混乱なく学科試験まで終了できた。</p> <p>臨地実習においても、コロナ感染症対策について実習施設と連携しながら、最大限臨地で実施することができた。臨地実習ができなかった時間については、県からの許可を受け、学内で実践活動外学習としての補強を行うことにより、カリキュラムを終了できた。</p> <p>今後も、コロナ禍により、計画通りの教育課程の実践が難しいと予測されるため、状況に合わせてより良い教育方法を常に模索しながら実施していく必要がある。</p>	2.7	2.7	・内部評価の通り。

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
㉔ 授業・学習・評価課程	<p>各分野の講義設定の考え方は、「授業概要」に明文化されており、各授業を分野ごとのまとまりとして捉え、構成している。</p> <p>教員は、協同学習など能動的学習を取り入れた授業を実施し、専門科目の校内実習では、個々の学生に対して綿密に指導するために複数の教員による指導体制をとり、学生の看護技術習得を目指している。しかし、今年度は、コロナ禍により、対面での授業が行えず、一部課題学習への切り替えや、密を避けるために校内実習内容や方法の変更を余儀なくされた。</p> <p>科目毎の評価は、科目講義内容や試験方法などを専任教員全体で検討した上で、他の関連教科との整合性を保ち、かつ科目の評価も偏らずに行えている。</p> <p>シラバスは、「授業概要」に全科目を掲載しており、学年進級時に変更があれば修正版をその都度配布し、さらに必要であれば詳細な講義計画を初講時に配布している。今年度からは、ホームページにも掲載し、コロナ禍によるシラバスの内容変更にも対応することができた。各科目の内容は明確にしており、他の科目との関連や重複などについてもマトリックスを作成し直し、検討中である。</p>	2.8	2.7	・内部評価の通り。
㉕ 経営・管理課程	<p>組織体制は、学則・校務分掌要綱において規定している。また、教育活動に関する意思決定については、運営委員会や各種委員会等において審議のうえ校長が決定する体制としており、その決定事項を教職員に周知している。</p> <p>予算については、所定の予算要求手続きを経て決定されるが、設置自治体の財政状況が厳しいことから、要求内容とおりに手当てされることは稀である。このため、要求にあたっては事業の優先順位やもたらす効果などについて十分な検討を行っている。</p> <p>また、予算の執行についても財務規定に則り適正な執行に努めており、毎月、定期監査を実施している。</p> <p>今後は、施設整備や教材備品等の購入を計画的に行い、充実した教育環境を整えるよう取り組んでいく。</p>	2.5	2.7	・内部評価の通り。
㉖ 入学	<p>入学者の選抜については、受験倍率・受験者数の推移を考慮して入学試験（一般・推薦・社会人）を実施しており、入試委員会の審議を経て入学者を決定している。指定校推薦枠の拡大や積極的な学校訪問、様々なPRなどにより、受験者数の確保に努めているが、一般入試の受験者数が減少傾向にある。</p> <p>質の高い入学者を獲得するために、受験者を一定数以上確保することは重要であり、今後一層、広報活動の充実を図ると同時に、社会情勢を踏まえた入学者の選抜方法を検討していく。</p>	2.7	2.7	・基礎学力が低い者が増えているように思います。看護系大学が増えている中で再考が必要と考えます。

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
㊦ 卒業・就職・進学	<p>国家試験の合格者割合は、近年 96～100%を維持し全国平均を上回っており、その維持・向上に向けて、計画的に3年間の学習計画を策定し実施している。さらに3年次には、成績不振な学生に対して手厚い個別指導を行っており、今後も引き続き国家試験対策を強化し、合格率100%を目指していく。</p> <p>卒業生の多くは毎年、瀬戸旭地域の医療機関に就職している。卒業後の活動状況について動向調査を実施しているが、平成30年以降はできていない。今年度予定していたが、コロナ禍によりできなかったため、次年度で実施していく予定である。</p> <p>各医療機関の実習指導者となっている卒業生も多く、当校の非常勤講師として後輩の育成に尽力されている卒業生もある。</p>	2.4	2.3	・進学・就職について、GOALが国試合格ではないため、看護師として社会人としてのご指導があると良い。国試合格後の専門職として働くという自覚が身につくと良い。
㊦ 地域社会／国際交流	<p>学生は、環境ボランティアとして清掃活動を全学年で行っており、地域におけるボランティア活動として、実習病院でのまつりや各種イベントへも積極的に参加・協力している。今年度は、コロナ禍により環境ボランティアの活動以外は、参加の機会がなかった。</p> <p>教員による専門分野を活かした社会貢献としての、外部機関への講師として派遣、臨地実習指導者講習会の講師や教育実習については実施ができた。</p> <p>国際的視野を広げるため、国際看護の基本理念の理解やその方法を考える授業を取り入れ、災害看護担当の外部講師による特別講演なども実施し、学生に国際交流への関心や意識を高めるよう努めている。</p>	2.3	2.0	・限られたボランティア活動の留まり、発展性を感じません。コロナ禍でも工夫できます。例えば集団接種会場案内や誘導とか。子ども食堂とか。
㊦ 研究	<p>全ての教員がいずれかの研修会や学会等に参加できるように年間計画を立て実施してきたが、今年度はコロナ禍により予定していた研修が中止になることがあった。オンライン開催となったものには、一部参加することができた。</p> <p>組織的・計画的な研究活動の実施体制は、まだ十分とは言えない現状がある。授業研究に繋がるような校内での積極的な授業参加は、今年度において件数が増加しているため、引き続き教員の研究活動が組織的に行える体制づくりを検討していく。</p>	1.9	2.0	・研究発表の実績を受けたことがありません。